

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400129		
法人名	(株)アガペ		
事業所名	グループホーム アソシエ飯倉		
所在地	福岡市早良区飯倉5丁目21-4		
自己評価作成日	平成31年3月3日	評価結果確定日	平成31年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成31年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

業務マニュアルの見直しを行い、会社全体で新人育成研修を開始して、新しく入った職員が不安なく業務に就ける「働きやすい職場作り」をスローガンにして、利用者様と長く一緒に働く職員を増やすことで、利用者様により良いサービスを提供できるように努めてまいります。利用者様にとっても馴染みの職員が多くいる方が心身ともに穏やかに暮らせることと思います。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「アソシエ飯倉」は小規模多機能事業所と併設型の2ユニットグループホームである。運営は福岡近郊で薬局や介護事業所を複数展開している法人によってなされており、今年に入ってから、系列全施設の取組を改めて共有して、新入職者に対しての業務指導方法や進捗状況をチェックするようにして漏れや抜けがなくなるようにした。法人全体での研修やグループホーム同士での情報共有も進めており、職員教育には力を入れている。開設から丸7年を迎えたが、地域の方との関わりも少しずつ深まってきており、地域校区の介護フェスへの参加や、取り組みを見て、他事業所から「地域に溶け込んできましたね」との声も聞けるようになったという。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念の唱和を行い理念を共有し、日々の業務にて実践している。	法人理念とは別に、アソシエ飯倉独自の理念があり、独自理念を毎朝唱和している。理念の中に「お客様に寄り添い、共に笑い、共に楽しむ」の一文があり、職員も利用者と一緒に時間を過ごすことに意識をおいて努めている。本部研修の中で、理念について振り返る機会があり、年2回、基本的には全社員が参加するようにしている。	何かを決める時に、理念に則した考え方が出来るようにしたいと考えており、唱和以外にも理念に触れたり、振返ったりするような取り組みがなされることにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、自治会の会合などでは場所の提供などを行っている。 地域倶楽部カフェに毎月参加し地域の方々と情報交換や事業所の紹介、介護相談などを行っている。昨年は飯原小学校で行われた介護フェスでアソシエ飯倉のブースも出し、地域の方々へ身近に感じてもらえるよう活動している。	近隣に住む職員が、自治会の役職も受けており、会合に施設内会議室を提供することもある。地域行事の情報もらい、夏祭りや施設交流には利用者と一緒に参加している。施設で毎年9月あたりに開催する「アソシエ祭」には地域の方も招き、ここ1、2年で参加されるようになった。近隣とも顔なじみになり、良好な関係を築いている。	職員が日中の地域活動になかなか出る時間がとれていないため、職員配置や人員の確保を進めながら、積極的な地域活動や交流の取組がなされていくことにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域倶楽部カフェにおいて、地域の方、民生委員、ボランティアの方などにグループホームにおける介護の実践方法や認知症の対応などを話したり介護の相談に応じたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行い利用者家族からあがった意見を参考にしサービス向上に努めている。昨年は他事業所との共同開催も行い、他事業所の運営や長所等も施設運営の質の向上につなげられたらと活動している。	単独開催しており、民生委員、家族、地域包括、などが参加される。昨年は初めて他事業所との合同開催を行った。参加者が他所の取組を知ることで新たな視点も加わり、刺激にもなったが、個人情報の取り扱いが難しいこともあり、今後も年1回程度の参加企画を検討している。議事録は全家族に郵送し、案内も一緒に送り、3家族程度が参加されている。行事との同日開催もあり、その際は参加者も増えた。	地域の方の参加をもう少し増やしていきたいと考えており、地域との接点を増やし、お誘いできる方が出来るような取り組みがなされることにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者がいるため、保護課への問い合わせや市の担当者へ運営推進会議の参加促しや事故があったとき報告すべき内容は報告を行っている。	運営推進会議の案内は毎回しているが、今のところ参加はなかった。利用者の対応に関して質問などがある時は電話して聞くようにしている。年に1、2回メールでの空室状況報告も行う。地域の事業所連絡会の際に、市の職員が参加されることもあり、その際に質問や問い合わせなどをする事もできる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間しか行わない。 身体拘束についても研修を行い、身体拘束を行わないケアの実践に努めている。	原則拘束をしない方針で過去にも事例はなかった。ここ1、2年で身体拘束廃止委員会も組織し、年に数回の委員会開催と、年2回以上の研修実施もしている。玄関施錠もしておらず、見守りとセンサーで事故のないように対応している。スピーチロックなどに関しても研修行い、日頃も注意するようにしている。	

H31.3自己・外部評価表(アソシエ飯倉)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、職員が虐待防止について学ぶ機会を作り施設内で虐待が起きないように努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修や、現在利用者様で成年後見制度を利用されている方もいるので、日々の業務の中でも学び円滑に活用できるように支援している。	日常生活自立支援事業と成年後見制度を使っている方がそれぞれおり、実際の活用事例を通して制度理解を進めている。入居後に制度利用に至り、外部の後見人とのやりとりもある。研修は内部研修で実施している。パンフレットも玄関に備えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際などは利用者や家族に十分な説明を行い理解、納得をして頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族から食事への意見が出たことから、業者を替えた。 運営推進会議や日々の業務の中で家族から上がった意見は取り入れ運営に反映させている。	昨年のアンケートをきっかけに食事についての声を頂き、柔軟に対応し、改善報告も行っている。情報の行き違いについてクレームを受けたこともあったが、以後報告タイミングを決めるようにすることで納得も頂けた。法人からのアンケートもあり、よく要望を把握しており、対応策についても書面で全員に報告している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中、毎月のミーティングの中で、年2回行う面談の中などで職員の意見を聞き、施設運営、ケアの向上に繋げている。	事業所全体で毎月ミーティングを実施、原則全員が参加し、欠席者も申し送りや議事録で共有している。主に利用者の状況やケアの方法について話し合い、積極的に意見も出されている。最近では誕生会の企画について話し合われた。年2回施設長との面談もあるが、日頃からも意見は上げやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社全体で人事考課制度やキャリアマップなどを整備し働きやすい職場作りを目指して環境整備を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に対して性別や年齢は条件に入れてない。男女ともに若手からベテランまで幅広く活躍してもらっている。 子育て中の職員や産休中の職員が安心して働くことができ、復職できるよう配慮している。	男女比は3:7程度で、年代は20～60歳代と幅広く、平均的には40歳代が多い。職員への研修案内もあり、勤務としての参加もされている。休みも取りやすく、休憩時間や場所も確保されメリハリのある勤務がされている。調理が得意な職員が調理レクなどで活躍したりと、能力を発揮して勤務されていた。	

H31.3自己・外部評価表(アソシエ飯倉)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人研修、施設内研修、外部研修などで人権教育、啓発活動を行っている。	権利擁護についての研修は外部での参加、内部での伝達も行っており、事業所内での周知に努めている。人権教育そのものを取り上げるような研修や勉強会についてはこの最近での実施はなかった。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修や、職員へのフィードバックなどで学ぶ機会を作っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の共同開催や相互参加、グループホームネットワークや認知症カフェの参加など同業者と積極的に交流を持つよう取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に面談を行い本人の意向や不安などについて伺い安心してサービスを受けれるように努めている。サービス導入後も本人の要望や思いを聞きコミュニケーションを取ることで信頼関係を作っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は家族の思いや要望困りごとに真摯に耳を傾け、入居後も面会時やケアプランの更新時、電話相談などで家族との信頼関係を構築できるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や相談の時点でグループホームで対応出来る事、出来ない事の説明をし、入居ありきではなく、本人にとって必要としている支援を提供できるのは何かを本人、家族と話し合っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人には出来る事は手伝って頂き、得意な事やわかることなどは職員が教わるなどし、支え合う関係を構築していく。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に受診や外出などで無理のない範囲で協力を仰ぐことで、施設に任せきりにならず、本人と家族との絆が切れないように、協力して支援していける関係を作る。		

H31.3自己・外部評価表(アソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人からの電話を取り次いだり、馴染みの場所に通えるように家族と協力しながら支援している。	半数程度の家族は月1回以上の面会にきており、遠方の方に対しても、全員に報告しているお便りで現況を伝えている。家族以外の知人や友人の来訪も家族と相談の上自由に受け入れている。教会や美容室に、家族の支援の下定期的に行く方もいる。一時帰宅や外泊する方もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や相性などを把握し席の配置や声掛けなどを工夫して利用者が出来るだけ孤立しない様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入所や入院による退去などがあっても入所、入院までのフォローなどを行っている。遠方に住んでいる家族が動きにくい場合、窓口になるなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前は面談にて、入居後は日々の暮らしの中で本人の話から汲み取って意向の把握に努めている。思いや意向の伝達が困難な利用者は家族から聞いたり職員ミーティングなどで本人に向きそうなレクリエーションや趣味の提供を話し合う。	アセスメントは基本的には管理者が入居時などに家族から口頭で聞き取って行っている。入居後に現場からの意見で分かった情報などはケアプランに入れ込む形で残している。毎月のミーティングの中で状況を共有し、思いや意向の把握に努めている。	基本情報について見直しが定期的になされていないので、少なくとも介護更新のタイミングでの見直しがなされることが望まれる。また、併設事業所からの移行の方についても、グループホームの情報として適切に控えをファイリングされてもよいのではないだろうか。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけでなく、家族からも話を聞き、医療機関や介護サービス事業者からの情報も含めて把握するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いたこと、注意すべきことなどを記録、申し送りノート、ミーティングなどで共有し現状の把握を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向、専門職の意見、職員のミーティングでの意見を介護計画に盛り込めるよう努めている。	ケアプラン作成は各ユニットの計画作成担当者が主に行っている。プランの見直しは3ヶ月で行い、その際に担当者会議も開いている。プランの目標についても毎日の実施チェックを行うことで全職員に共有されるようにしている。認知症実践者研修を受けた一部の職員はプランの素案や担当者会議にも係るようにしている。	職員のレベルをあげて、長期的な勤務体制を作っていくことで、現場の職員もプラン作成に関われるような取り組みがなされることにも期待したい。

H31.3自己・外部評価表(アソシエ飯倉)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りノートなどを活用し情報の共有やケアの向上、見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身内の方も高齢で援助が難しい時は、関係各所に連絡や対応を行うなどしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや同じ地区にある介護施設の夏祭りなどに利用者と参加する事で施設内だけですべてが完結しないように支援するよう心掛けている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が受診に連れていける場合と現在のかかりつけ医が当施設に往診に来れる場合にはかかりつけ医を継続したまま入居してもらっている。難しい場合には協力医療機関の中から選んでいただく。	家族の支援や往診が出来る場合は、今までのかかりつけ医を継続できるが、難しい場合は提携医に移行してもらっている。他科受診なども基本は家族に介助してもらうが、急ぐ際などは事業所から支援している。看護職員も非常勤で配置し日々の健康管理を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護と看護の連携を密にし利用者の健康管理や異常の早期発見が出来るように協働している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、入院治療がスムーズにいくよう介護添書を作成し病院に渡している。退院に向けてカンファレンスを行い退院後の利用者が安心して過ごせるように医療、介護、看護が協働し支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針について話している。施設としてどこまで出来るかについては入居後も説明する機会を作り家族と方針を共有するよう心掛けている。	医療対応が必要な場合は難しいが、本人家族の希望があれば出来る限りの支援を行う方針で、昨年もお一人の方を看取った。提携医も24時間連絡のつく体制が取れる所に協力してもらっている。以前はターミナルケアについての研修もしていたが、ここ最近ではなかった。	今後もターミナルケアの受入れがあることを想定し、継続して研修や勉強会が企画されていく事にも期待したい。

H31.3自己・外部評価表(アソシエ飯倉)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年1回全職員が救命講習を受けている。消防署に救マーク認定の申請をしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練では昨年度は2回とも夜間想定訓練を行ったが、今年度は夜間想定1回、日中1回にして昼夜対応出来る様に行った。 消防訓練を行う際には近隣にその旨を伝えている。	改めて全職員に避難方法を共有するために、日中と夜間を分けるようになった。年2回の内1回は消防署に立ち会ってもらい、他1回は設備業者に来てもらっている。地域の方に案内もしているが、ここ最近の参加はなかった。AED設置もあり、救急救命訓練もされている。	地域の方の参加を募るために、運営推進会議と同日に開催したり、参加できるような働きかけがなされることにも期待したい。地域の防災活動についても情報の収集や参加が検討されるのもよいのではないだろうか。備蓄物の確保についても進めることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを持って話すのはいいが敬意を忘れないようにする。利用者は皆プライドや自尊心を持っているということを理解してサービスの提供や声掛けを行う。	「利用者や家族の前で使えないような言葉は使わない」という考えの元に、日頃の言動について注意を払っている。接遇やマナーについての研修も年1回は行っている。写真利用については、以前同意を書面で頂くことがあったが全員には徹底されていない。	写真や肖像利用の同意については、契約時に書面でとり交わすように徹底されることが望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が利用者と話が出来る時間を作り、その中で希望や思いを拾い上げたり、利用者が自己決定する機会が持てるように選択肢を提示するなどの働きかけをしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日本人の希望に沿っての支援はなかなか出来てないが、利用者の行動を強要すること無いよう声かけやタイミングなどに気を使っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に着せやすい服ではなく、利用者の好みの服を選ぶよう支援している。更衣が自立している利用者にも毎日同じ服にならないように声かけを行う。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や時々外食などを行い本人にメニューを選んでもらう事で食事を楽しんで頂く様支援している。通常の食事の時は食器拭きやテーブル拭きをして手伝ってもらっている。	3食とも業者から調理済み食材の配食があり、炊飯のみ事業所内で行っている。業者は利用者や家族の声で柔軟に変更しており、満足いただけるように取り組んでいる。月1回は調理レクを企画し、その際は出来ることも手伝ってもらいながら食事を楽しんでいる。食べたい物は外食やレクじに反映させる。職員は通常は別個に食事している。	

H31.3自己・外部評価表(アソシエ飯倉)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量を記録して食事量の把握に努めている。利用者の嚥下状態を考慮し常食、キザミ食、トロミ、ミキサー食など一人一人にあった食事を提供するように支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指導の下、歯磨きの仕方、舌ブラシを使っての口腔内の清潔保持などを習い利用者の口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り利用者の排泄パターンを把握する事で、トイレの声かけのタイミングや間隔を検討してトイレでの排泄が出来るように支援している。	全員分の排泄チェック表があり、利用者それぞれに24時間15日分が1枚で把握できるようになっている。チェック表をもとに、失禁のないよう声掛けを事前にするなど職員同士で情報を申し送りし共有し、気づいた職員が適宜改善提案をするようにしている。提案によりパット使用が減ったケースもあった。便秘についても抜けのないように共有し、適切な処置につなげている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の歩行、立位運動で体を動かしてもらったり、腹部マッサージで排便を促したりしている。起床後に水分補給や牛乳摂取などで便秘の予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なかなか本人の希望やタイミングでの入浴は行えてない。ただ拒否がある時や体調面を考慮して曜日や時間の変更は行っている。利用者に入浴を楽しんで頂くため時々入浴剤を使って気分転換を図っている。	1Fが機械浴、2Fが三方介助の出来る普通浴である。1人当たり週2回で10時～15時内で入浴してもらっている。要望のある方には入浴日以外に回数を増やして対応することもある。順番なども人によって考慮し、浴槽の湯も適宜張り替えて清潔を保っている。皮膚観察や健康管理の場としても役立っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないように日中体操やレクリエーション等行い夜間休めるよう支援する。ただその時々状況により日中でも臥床を促すなど柔軟に対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は日付、名前等を利用者の前で声に出して読み誤薬を行わない様に気を付けている。職員が薬についてすぐに調べられるよう薬のファイルを作っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日にドライブに行ったり屋食やおやつを外に食べに行ったりして気分転換を図っている。中庭を使って散歩や行事を行うなどし陽に当たる機会を作っている。		

H31.3自己・外部評価表(アソシエ飯倉)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望で外出支援というのはなかなか出来ていない。施設だけでは現状難しいが家族と協力することで本人の希望に添えるよう支援している。	車を使うような場合は、2ヶ月に1回程度で計画立てた外出レクを行っている。歩いて行ける範囲にコンビニに買い物に行ったり、難しい方は中庭に出て外気に触れる機会をもっている。家族が来られる方には外出支援をしてもらっている。	日常的な外出機会がもう少し増やせるように、職員体制や環境整備が進んでいく事にも期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理が出来る利用者には所持してもらっている。自分で管理が出来ない利用者でも一緒に買い物に行くなどの支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は自分で電話をかける利用者はいないが、電話がかかってくれば取り次ぐようにしている。利用者が手紙を書いたら投函するなどの支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の飾りや行事の飾りなどを作り季節感を感じてもらえるよう配慮し、利用者が快適に暮らせるように室温や照明を調整している。内装を木目調と白で統一し落ち着いた雰囲気作りを心がけている。	季節や行事に合わせて、職員が利用者と一緒に飾りつけを行っている。ホールから直線で廊下が伸びており、ちょっとした歩行訓練をすることもできる。明るい色のフローリングで、ホールも両側に窓があるため採光も良い。天然芝と東屋のある中庭があり、気軽に外気に触れることも出来る。テーブルが数か所に配置され、キッチンにカウンターテーブルも備え付けられるため、利用者同士も適度に距離を持ちながらゆったりと過ごされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルの配置や利用者同士の相性や好みなど考慮して席を決めるように配慮している。カウンター席も使い一人になれる時間や居場所づくりも行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人、家族に使い慣れたものや必要な物を持ちこんで頂き自分の過ごしやすい部屋を作ってもらうように説明している。本人に管理ができ危険の無い物なら好きな物を持ちこんでもらっている。	各居室の広さは規定よりやや広めで、電動介護ベッドと腰高の洋服ダンスが備え付けられている。持ち込みも自由で、管理が出来方は仏壇や冷蔵庫、テレビ、電気ケトルを持ち込んでお茶を飲んだりもしている。周辺環境も静かで施設周りに生垣もあるため、目線にも配慮され静かに過ごせる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内で自分で動けるように物の配置を検討したり、部屋やトイレに自分で行けるよう張り紙をしたりしている。		